

1. シラバス

科目名	家政学
単位数	2単位
担当教員	大石美佳
開講学科	管理栄養学科
開講学年	1年
開講学期	春semester
免許・資格課程との対応	
授業概要	家政学部の学生として、「家政学とはどのような学問か」を理解するために、家政学の方法論と体系、家政学の成立史について学ぶ。また、家政学の研究対象である家庭生活の現状から、今日の家族を取り巻く状況や家族の抱える問題について考察する。
到達目標	①家政学の方法論・体系・成立史について説明できる ②身近な生活問題について把握し、課題を分析できる ③自分たちが生きる社会のめざすべき方向性について提案できる
授業内容・方法	
第1回	学問としての家政学(家政学の方法論と体系)【講義】
第2回	ヨーロッパの家政学【講義】
第3回	アメリカの家政学①：ホームエコノミクス思想発達の歴史的背景と影響【講義】
第4回	アメリカの家政学②：ホームエコノミクスの生成と発展【講義】
第5回	日本の家政学①：「家」のための家政時代【講義】
第6回	日本の家政学②：「国」のための家政時代【講義】
第7回	日本の家政学③：家政学誕生・発展の時代【講義】
第8回	家政学の現状と社会的役割【講義・小テスト】
第9回	家族とは何か【講義・ディスカッション】
第10回	多様化する結婚のかたち【講義・ビデオ視聴】
第11回	出生率低下の現状と要因【講義】
第12回	子育ての現状【講義・ビデオ視聴】
第13回	子育てを支える社会【講義・ビデオ視聴】
第14回	日本の家族、世界の家族【講義・ビデオ視聴】
第15回	生活の豊かさとは何か【講義・小テスト】
定期試験等	定期試験は実施せず
準備学習・復習	プリントを見直すこと
成績評価	授業内試験70%、受講状況30%
教科書	教科書なし
備考	身近な生活に関心を持ち、疑問点や問題点を把握し、解決方法を考える実践的態度を心がけること

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

原論部分は書き込み式のプリントを使用し、ポイントをわかりやすくする

■配布プリント(例)

「家政学」

1. 学問としての家政学

○学問の成立条件

1. 方法論(methodology)の確立 →本質と独自性の明確化が必要

①():()

②():()

③():()

2. 学部の設置 ()

・日本で最初に家政学部を設置した大学 ()

・国立大学に家政学部が誕生 ()

・京浜女子大学 家政学部 (1954)

3. 学会の設立 ()

・()

○家政学の成立

・「家政学」という語は明治期から存在 ()

(「家政」という表現はそれ以前から存在)

・正式には1948年、新制大学家政学部発足時に「家政学」として誕生

Home Economics (語源: Oikos (家) と Nomos (管理) →Oikonomics に基づく)

○家政学の定義

「家政学は、()を中心とした()における()と()

との()について、()・()両面から、()・()・()

の諸科学を基礎として研究し、()とともに()に貢献する

()である」(日本家政学会、1984)

○1970の定義

「家政学は、家庭生活を中心として、これと緊密な関係にある社会現象に延長し、さらに人と環境との相互作用について、人的・物的の両面から研究して、家庭生活の向上と、ともに人間開発をはかり、人間の幸福増進に貢献する実証的・実践科学である」

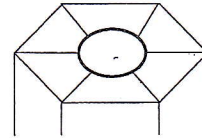
○定義で示されている方法論(目的・対象・方法)を確認しよう。

○1970年と1984年の変更点を整理し、なぜそのように変更されたか考えてみよう。

○家政学の領域と体系

・一般的分類：(7領域)とサブ領域

- (1) 食物学 (栄養、食品、調理、食生活ないし食文化)
- (2) 被服学 (衣生活、被服材料、染色、被服整理、被服衛生、被服構成、服飾意匠・色彩、被服心理・服飾社会、服飾美学・服飾史、被服教育)
- (3) 住居学 (住居史、住生活、住居管理、住宅問題、住居デザイン、室内環境・設備、構造・材料・設備、居住環境)
- (4) 児童学 (発達、保健、育児・保育・教育、文化・文学、福祉・福祉、臨床)
- (5) 家庭経営学 (家庭経営・管理、家族関係)
- (6) 家政教育学 (家庭教育、学校教育、社会教育)
- (7) 家政学原論 (家政学論、家政学史、比較家政学、家庭生活論)



○家政学の動向

・家政学から()へ

・1975に学部の名称変更が開始し、1980年代後半から徐々に名称変更へ

ex. 社長の女子大学→()学部、奈良女子大学→()学部

・アメリカ家政学の動向

Home Economics から()へ

アメリカ家政学会の名称変更 (1994)

AHEA:

→AAFCSS:

○これから家政学が目指すべき方向性について、自分の考えをまとめてみよう。

新聞記事などを利用し、学んでいることと現実社会との接点を感じさせる

■配布資料(例)

家族の授業は視聴覚教材を多用し、多様な家族のあり方について考えさせる

■視聴覚教材(例)

「男と女～多様化する結婚のかたち～」、「叫び～子育てママの13万通のメール～」

「63億人の地図⑦出生率～女と男 支え合う未来～」(以上、NHKスペシャル)

「スウェーデンの子育て」、「地球家族～あなたはいま幸せですか～」 など